

災害派遣職員レポート

No.50 H23.9.12

陸前高田で活動していた、えびな南高齢者施設 八巻職員の報告です。

お疲れさまです。活動報告が遅くなりまして申し訳ありません。

陸前高田での活動は明日で終わりです。ここまで来ると非常に短かった 2 週間だったと感じます。初日から 10 日連続で雨に遭い、半袖では寒い日もありました（あまりの気温差にパーカーを買いました）。私たちは、前任の下鳥・平野チームから青空サロンの運営を引き継ぎました。

平時のサロンはお茶飲み会などとして地域の住民が交流を持つのに対し、青空サロンでは災害時のサロンとして住民主体ではなく社協がきっかけを作っていくものです。その第一の目的は、仮設住宅の住民の孤立を防ぐことです。サロンがスタートし 2 か月が経っています。住民への認知もほぼ 100% 広がっています。そんな中で、仮設住宅の生活で生じる課題を見つけていくことを目標にしました。

サロンへ積極的に来ていただける方はそこで普段の様子を確認できます。お話し好きな方が多くいらっしゃいます。しかし、そこだけの対応では全体が見えません。戸別訪問を行い、住民の状況、意向などを確認していきます。それがメインの活動です。

仮設住宅の中には、一般的な地域にあるような世帯がそのままあります。高齢夫婦世帯、独居世帯、子育て世帯などなど。仮設住宅が自分所有の家(土地)ではないことが最大の違いです。それゆえ自分のしたいことへ抑制がかかります。そう感じたのは「したいことも自由にできない」という住民の言葉です。「できない」のではなく「しない」という気持ちが垣間見られます。震災に遭い、仮設住宅という環境に移り、何かを与えられることが多くなった状態です。様々なことがマイナスな思いにつながっているように思えます。

前向きに考えようという方々もいらっしゃいます。大津波ですべて流れるという壮絶な光景を目の当たりにして、どうしようもない気持ちを自分の中に落とし、楽しく生きようと語っていただける方もいます。

そうした方々もサロンへお誘いすると、何気ない世間話や、震災時のこと、家族のことなど多くを語っていただけます。サロン内で、お互いに困ったことなどを打ち明け合う場面も多くみられました。サロンは「外に出る」「気持ちを言葉にする」「情報を共有する」場として、なくてはならないものになってきました。また、戸別訪問をすることでサロンへの参加を促すこともできました。

サロンへは、ご年配の方々と子どもたちが主な参加者です。実はこの世代間は犬猿の仲になっています。この世代間の融和も、仮設住宅内の関係作りの課題です。

今後9月中旬より社協の生活相談員(新規採用15名)が私たちの活動を引き継ぎ、サロンは縮小の方向に向かいます。しかし、住民からは「寒くなっても続けてほしいわ」と現状維持を願う声もあります。サロンは元々小学校の校庭を使っています。社協、小学校、住民の間での調整が必須となってきます。

住民のみなさんとは、本当に馴染んできた頃でのお別れです。明日で私たち2人の活動は終了してしましますが、これまでの活動が継続・発展できるように引き継ぎを行います。

長くなりすみません。残りの時間やれる限りのことをやってきます。

引き継いで、陸前高田で活動するえびな北高齢者の三浦職員の報告です。

本日、陸前高田に入りました。

今日は前任者との引き継ぎ、仮設住宅の住民の方や川井先生をはじめとする現地のスタッフ方への挨拶だけで1日が終わってしまいました

まだ仮設住宅の住民の方の様子もよくわからない状況なのでまずは記録を見たり、サロンの利用者から話を聞いたりして、できるだけ状況を把握出来ればと思っています。

報告が遅れてしまい、申し訳ありません。

ケアマネの皆様へ

ご迷惑お掛けしています。

忙しいところ送り出して頂き、ありがとうございました。

何か困ったこと等、ありましたら御連絡ください。

上記の三浦職員と共に、陸前高田で活動する中心荘の佐藤職員の報告です。

お疲れ様です。活動報告です。

今までの形での青空サロンは10日で終了。その後は仮設住宅の住民の方でできる範囲でサロンを運営していく方向で話が進んでいるようです。

今日も、震災時の話が頻繁に出てきました。津波からどのようにして逃げてきたのか、避難所での生活についてそれぞれお話していました。以前の高田松原の写真を持ってきて、どんなにきれいな場所だったかも教えてくださいました。

「震災でおかしくなってしまったようで、今でも悪い夢を見る」という方もいらっしゃいましたが「ここ(サロン)に来ると震災の話ができる。話をするだけで少し楽になる。こういう場所があって良かった」とおっしゃっていました。

昨日、今日は、以前にも2回来たことがあり、青空サロンのお手伝いもしてくれていたという方がボランティアでいらっしゃいました。

前回参加された7月の終わり頃と比べ、住民の方同志の会話が増えている、震災の話がよく出てくるように感じるとのことでした。

あと少しで中心会が関わるサロンの運営も終了ということで、「このサロンがあつて本当に助かった。」「来てくれるだけで本当にうれしかった」と今まで派遣された職員に対する感謝のお言葉もたくさん頂いています。また、「直接来ていない方にも感謝している」とおっしゃっていました。

明日も引き続き青空サロン運営、戸別訪問を行っていきます。

住民の方の中で大切な存在になっているサロンがこれからも良い形で継続できるようにお手伝いしていきたいと思えます。

浦野理事長より

いよいよ、最終ステージも幕を閉じようとしています。

この半年の間、多くの職員が献身的に頑張ってくれました。また、現地へ赴いた職員の留守を守って、すべての職員が頑張ってくれました。

あらためてすべての職員の皆さんに感謝します。ほんとうにありがとうございます。